



【やまわき紀子のプロフィール】

- わらび生まれわらび育ち
- 現在、市議7期、環境福祉経済常任委員会副委員長、原水爆禁止蕨市協議会副会長。保育園、学童、小中高校PTA役員など歴任
- 南町在住 TEL・FAX446-3129

障がいのある児童等の療育や相談体制の整備を

山脇 未就学児の発達支援の「気づき」から「対応」への支援はどのようなか。

健康福祉部長 障害の早期発見から療育につなげるため相談支援や医療機関の受診などを経て、障害児支援利用計画を作成の上、サービスの利用による療育を開始する。

山脇 認定心理士や臨床心理士等の専門家の配置等、相談体制を拡充する考えはどうか。常勤を要望したい。

健康福祉部長 保健センターでは、乳幼児健診時の相談対応のため、臨床心理士を配置。個別相談事業の「すこやか発達相談」では臨床心理士を、「精神発達 2 次健診」では小児科医、臨床心理士の配置を継続していく。

山脇 保育園と児童発達支援センター・事業所との連携はどうか。

健康福祉部長 障がいのある児童は、現時点で認可保育園が14人、小規模保育園が2人。保育園では児童発達支援センターあすなろ学園が実施する「巡回相談」を依頼し、障害や発達のみづきを持つ児童の支援方法について、保育士が助言を受けることができる。保育園と児童発達支援事業を併用してい

る児童については、「保育所等訪問支援」などにより、児童発達支援センター・事業所による定期的な訪問を通して連携を図る。

山脇 特別支援教育支援員の配置状況はどうか。

教育部長 現在小中各学校に1名ずつ特別支援教育支援員を配置。令和8年度は、5名増員予定で、配置校は、授業中の個別の支援や作業の際の安全確保、また日常生活の介助の度合いなど、各学校の実態把握を行った上で、判断する。



ユースクリニックを設置

山脇 思春期の若者が気軽に訪れて、性に関する相談や性の正しい情報を得たり、メンタルサポートなどが受けられる「ユースクリニック」の設置にむけての検討は。

病院事務局長 中学生から20代の青少年を対象に、性の悩みや月経困難、過多月経などの不安、思春期特有の身体的・心理的变化に伴う不安やストレス、心の悩みなどに対する相談を4月から、毎月1回(予約制で2人)実施する。



鈴木さとし議員の一般質問項目

- ◆にぎわいあるまちづくり 「にぎわい交流拠点」と市民参加
- ◆市立病院の推進を 市民要望をいかした取り組み
- ◆高齢者の居場所づくり・「私の希望ファイル」の提案



健康を守る いのちと 市立病院



厳しい環境を乗り越え 移転・建替えの推進を

市立病院会計予算の附帯決議に対する討論で表明した日本共産党市議団の見解(概要)を紹介します

蕨市立病院は年間900件もの救急搬送を受け入れ、採算が難しい分野で大きな役割を担う等、蕨にとって必要な存在であることは言うまでもない。一方で、病院経営の難しさや建築費の高騰が全国的にも問題となっている。

こうした中、基本設計では様々な市民要求を盛り込みながらもコスト低減を図った構造形式を採用し、医療需要の変化に対応できる工夫

なども行われてきた。現場の声を生かした「経営危機打開プラン」では医師や医療スタッフの実践が始まっている。頼高市長の下で、市財政の健全化とともに公共施設の耐震化等も進められてきた。

蕨市議会は、市立病院の重要性と今日の困難な状況の両面から事実即した議論を行うことで、移転・建替え事業がふさわしく進むよう役割を果たすべき。日本共産党市議団も力をつくす決意を表明する。